

今後の作業の進め方について

(中大・佐藤)

◎ 包括設計コードの印刷

- ・ 構造工学委員会で承認。佐々木前幹事が印刷したときのルートを継承できるか。
- ・ 一年後、「作用指針」の印刷時に、セットとするか。

◎ 第 I 編・付録 (HP から)

(担当者、敬称略)

章(節)	執筆担当者	頁
A-I. 1 信頼性理論に基づく作用組み合わせ	白木	A-I-1
A-I. 2 荷重のばらつきや不確定性と設計用荷重 (特性値と部分係数)	鈴木	A-I-5
A-I. 3 統計的手法による作用モデルの構築	本城	A-I-12
A-I. 4 偶発作用の考え方(野津提案)	野津	A-I-18
A-I. 5 国際設計指針・基準等における荷重・作用の現状	佐藤	A-I-?
A-I. 6 各作用のリンク先, データベース等	戸田	A-I-?
A-I. 7 「性能設計における作用・環境的影響指針」補足	佐藤	A-I-?

A-I. 2 については本日原稿が出ている。A-I. 1, 3 と並んで、「性能設計を前提として」「この指針の『作用原論』をご理解いただいて」「データが利用可能な状況にあって」、そこで変動作用に対する扱いを考えていただく立場の方への、「信頼性グループからの教科書的ガイド」という位置付けである。

これと並んで偶発作用をどのように説明するか、この指針の議論の中でもたびたび意見交換してきたが、すっきりとまとまってはいない。偶発作用として想定されるものは多岐にわたるので、第2編に独立した章を設けるのは難しいようである。地震や衝突などで「〇〇の場合は偶発作用として扱う」と記述される場合があるので、その受け皿をある程度きっちりさせる必要はあると思われる。A-I. 4 野津提案は、立派な内容だが、もう少し「可能性を網羅し」「構造物に『原因と不釣り合いな結果』を招かないためのロバストネスを求める」ことも書いた方がよいか。(→偶発作用 WG を短期で作るか?)

「補足」として書くことはいろいろ思い浮かぶ (A-I. 7)。性能設計実現に向けて理想を追求することが本指針の主目的だが、「従来型の設計基準で『荷重』としてきたものとのすり合わせ」あるいは「便法としての荷重とのすり合わせ」など、読者向けの解説を入れてもよいであろうか。

夏休み明け(土木学会全国大会@早稲田大・9/7-9の後ぐらい)を目処に、各章の第一稿が出揃うことを目標とし、秋に全体検討、年末・年明けに修正作業としていきたい。

◎第 II 編 各種作用 (HP から)

章(節)	執筆担当者	頁
1. 基本方針	佐藤	II-1
2. 死(固定)作用		II-10
3. 走行(活)荷重	白木、佐藤、川谷、金、齊藤、横山	II-20
4. 風作用	石原、勝地、川谷、中山、横山	II-30

5. 地震作用	澤田、中村、秋山、北原、野津、長尾、梶田	II-40
6. 雪作用		II-50
7. 温度作用		II-60
8. 波浪および流体による作用	長尾	II-70
9. 地盤作用	鈴木、塚本	II-80
10. 衝撃作用 <i>New!</i>	榭谷、香月、河西、梶田	II-90
11. 環境作用(環境的影響)	下村、松島、三島	II-99

8. はようやくスタート. 11. はメンバーから執筆の確約はいただいております. 9 はどうでしょうか. 受働土圧を含めた反力(反作用)に言及していただけるか, 地盤沈下の影響を構造物は作用としてどう見たらよいのか.

上記「付録」同様, 遅れている章も「夏休み明け第一稿」といきたいところですが.

少なくとも「基本方針」で述べた, 現象→作用→荷重(モデル)→応答の概念分類だけは, 最終的な指針で足並みが揃っている必要あり.